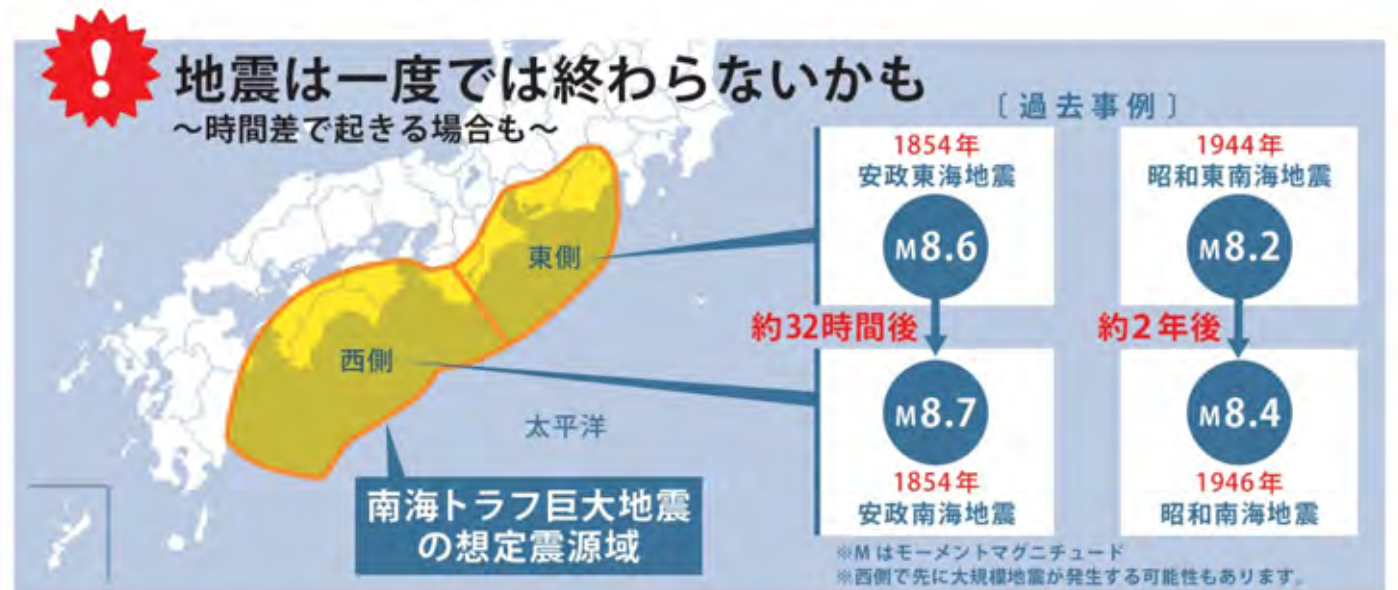


南海トラフで想定されている大規模地震や津波に備えましょう

南海トラフ地震は、静岡県から宮崎県の沖合までの南海トラフのプレート境界で概ね100から150年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震です。前回の南海トラフ地震が発生してからすでに約80年が経過しており、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高い状態です。

大きな地震の発生など南海トラフで異常な現象が観測されると、南海トラフ地震の発生可能性が、平時より高まると考えられます。このため、南海トラフ地震の想定震源域周辺でマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合などには、想定震源域における新たな大規模地震の発生可能性の高まりをお知らせするため、気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。

「南海トラフ地震臨時情報」が発表されても南海トラフ地震が必ず発生するとは限りませんが、大規模地震に備えた行動を取ることで、被害を減らすことができます。突発的な地震に日頃からしっかり備えるとともに、情報が発表されたら、「日頃からの地震への備えの再確認」に加え、すぐに避難できる態勢の維持など「特別な備え」をお願いします。地震発生後では津波からの避難に間に合わない可能性のある方々は、自治体からの指示に基づき1週間の事前避難が必要となることもあります。また、「南海トラフ地震臨時情報」が発表されなくても大規模地震が発生することがありますので、日頃から家具等の固定や避難場所・避難経路の確認等を行い、地震に備えましょう。



『はくい農業委員会です』

女性農業委員のチカラ、農業のミライを見つめる

vol.6

図 農業委員会事務局 ☎0823-43-1645

江田島市農業委員会は農業委員9名・農地利用最適化推進委員15名で構成され、農業地域振興のため、農地利用の最適化活動を行っています。農業委員会における委員の活動を広く市民の皆様を知っていただくために、インタビュー形式で掲載します。第6回は、清水正子委員(77歳)です。

清水さんは、こどもの保育園入園をきっかけに農業協同組合に就職し、以来32年間、地域の農業者とともに歩みながら、定年まで勤め上げました。

「農協の仕事は本当に居心地が良かったです。仕事で泣くようなことは一度もありませんでした。」と、にこやかに振り返ります。地域と農協の関係はとても密接で、農業だけでなく、家電の販売、年金の手続き、保険や金融業務まで幅広く任せてもらっていて、農家の方々と深い信頼関係を築いてきました。「みなさん本当に優しい方ばかりでした。」と、感謝の気持ちは今でも忘れられないそうです。

現在は、農協で培った豊かな経験と人脈を生かして農業委員として活躍されており、自身の畑ではトマト、トウモロコシ、カボチャなど、季節ごとに旬の野菜を露地植えで育てています。一晩でぐんと大きくなる作物の姿に、

毎日驚きと喜びを感じながら畑に立つのが日課です。

また、隣に住む娘婿が定年を迎えたのを機に、一緒に野菜作りをしています。畑を通じて家族との新しい時間も楽しんでいます。

「農地や農業のことで悩んだら、気軽に相談してくださいね。」と語る清水さん。長年の経験と人とのつながり、そして今も現役の「畑の担い手」としての目線が、地域の農業を支える大きな力となっています。

「農業は誰かの暮らしを支える仕事。女性にも、もっと前に出てきてほしい。」地域の農地を守るため、そして未来の担い手を育てるために、清水さんは今日も、畑と地域にまっすぐ向き合っています。



▲野菜栽培に励む清水さん

民生委員・児童委員 ～心と心のつなぎ役～

地域の「サロン」や「いきいき百歳体操」などで

活躍しています

図 社会福祉課 ☎0823-43-1638

江田島市内には、地域住民が主体となって運営している地域住民の通いの場としての「サロン」や「いきいき百歳体操」のグループなどが多数あります。通いの場は、介護予防や認知症予防、社会参加の機会の確保につながっています。

民生委員の中には、地域の方と一緒に通いの場の運営に携わっている委員もあり、地域福祉に貢献しています。



飛渡瀬地区の寺尾さん(中央)と大段さん(左)▲



▲鹿川地区の米原さん(左奥)



▲中郷地区の佐々木さん(左)



▲是長地区の空久保さん(手前)



広島県民協
マスコットキャラクター
「ミンジー」



江田島警察署通信 第108号 江田島警察署 ☎0823-42-0110



～夏休みに起きやすい事件事故～

今年も昨年に引き続き猛暑となり、こどもたちも夏休みが始まりました。

今回は、こどもたちの身を守るために夏休みに起きる事件事故について、お話しします。

まず事件ですが、ストーカーや性犯罪などが、夏場に増えます。夏は、子どもたちの服が軽装になることで、犯罪者に狙われやすくなります。また、こどもたちも開放的になりSNSで知らない人とやり取りをして、呼び出され、わいせつなことをされるという事件も発生しています。

事故については、水にまつわる事故が増えます。夏休みに家族や友達と一緒に川や海に遊びに行き、大人こども問わず水難事故に遭っています。浮力が少なく、

流れがある川で深場に足を取られて溺れてしまう場合、海でパニックになって溺れてしまう場合、また溺れてしまった人を助けるために水に入り溺れてしまう場合などがあります。

夏休み前には、各小中学校を回って防犯教室を実施しますが、皆さんもこどもたちの動向に気を付け、地域でこどもを見守りましょう。また、1年に1回は、消防が行う救命講習を受講するなどして、事故などに遭った場合に対応できるように準備しましょう。

江田島警察署も、こどもたちが、安全安心に夏休みを過ごせる江田島市を目指して、今年も精力的に活動していきます。